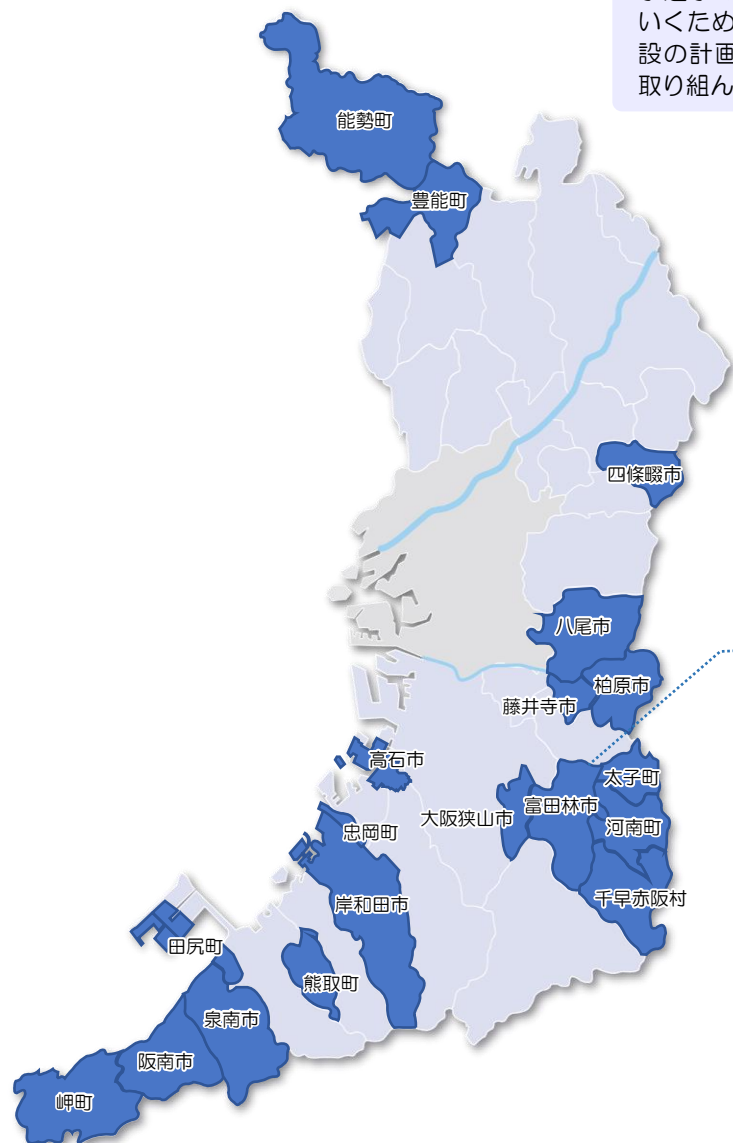


2025年度の主な取組

■ 市町村域水道事業(18水道事業)



水道水の安定供給を持続していくため、老朽化が進む水道施設の計画的な更新・耐震化に取り組んでいます。



富田林水道事業

重要施設配水管路の目標設定について教えて！

2024年1月に発生した能登半島地震で上下水道施設に甚大な被害が生じ、復旧が長期化したことを踏まえ、国土交通省から全国の水道事業者や下水道管理者に対し、重要施設※に接続する上下水道管路等の耐震化を推進するための「上下水道耐震化計画」を2025年1月までに策定するよう要請がありました。

この計画策定に当たり、企業団と統合元団体で協議を行い、対象施設となる重要施設の見直し(地域防災計画とも整合)を行うなど、これらに接続する重要施設配水管路の耐震管率の目標値(2029年度)を設定しました(これにより一部の水道事業で従来の目標値から変更が生じています。)

本アニュアルレポートにおいては、昨年度に引き続き、「上下水道耐震化計画」の目標値に対し実績の推移を報告します。



※ 災害時においても給水の重要性が高い医療機関、避難場所、福祉施設、防災拠点等の施設。
なお、「上下水道耐震化計画」に合わせて「重要給水施設管路」を「重要施設配水管路」に変更しています。

企業団と水道事業を統合した市町村

- 2017年4月から企業団が水道事業を開始
四條畷市・太子町・千早赤阪村
- 2019年4月から企業団が水道事業を開始
泉南市・阪南市・豊能町※・忠岡町・田尻町・岬町
- 2021年4月から企業団が水道事業を開始
藤井寺市・大阪狭山市・熊取町・河南町
- 2024年4月から企業団が水道事業を開始
能勢町※
- 2025年4月から企業団が水道事業を開始
岸和田市・八尾市・富田林市・柏原市・高石市



企業団が直接、各ご家庭に水道水をお届けしています

13水道事業
(14市町村の水道事業)

※ 豊能町域と能勢町域の水道事業は、2024年4月に統合し、豊能地域水道事業として運営を開始

18水道事業
(19市町村の水道事業)

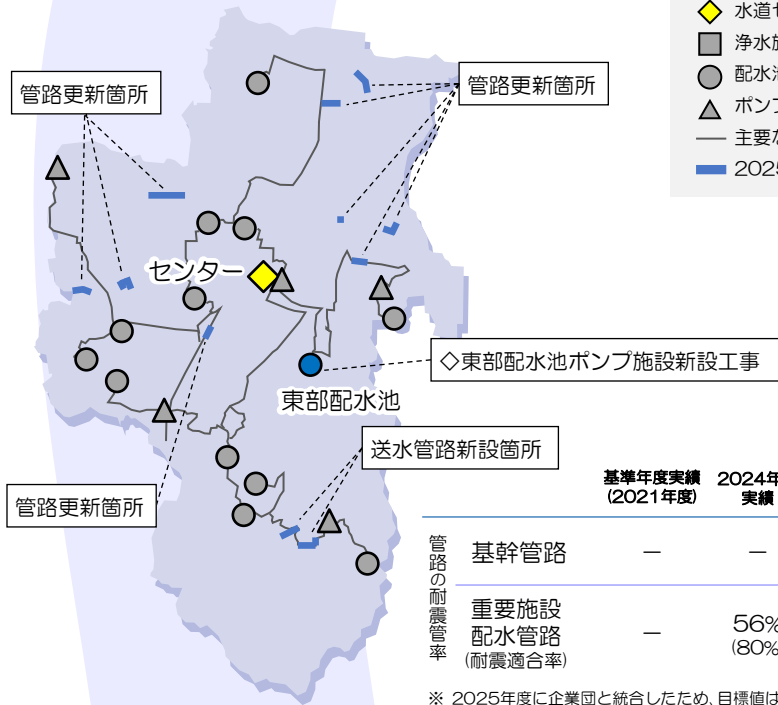
5水道事業
(5市の水道事業)

2025年度の主な取組

■ 富田林水道事業

【凡例】

- ◆ 水道センター
- 浄水施設
- 配水池
- ▲ ポンプ場
- 主要な既設管路
- 2025年度整備箇所



	基準年度実績 (2021年度)	2024年度 実績	2025年度 実績	目 標 (2029年度)
管 路 の 耐 震 管 率				
基幹管路	—	—	59%	—※
重要施設 配水管路 (耐震適合率)	—	56% (80%)	58% (82%)	63% (90%)

※ 2025年度に企業団と統合したため、目標値は次期経営戦略の策定に向けて検討中です。

2025年度の執行額は8.6億円で、主な事業は次のとおりです。



送・配水のネットワークの強化

■ 送水管布設工事(甘南備分岐・甘南備地区)

2027年度より水道用水供給事業からの受水を開始するため、甘南備分岐の新設に伴う送水管の布設工事を実施しました。

2025年度
執行額

42百万円

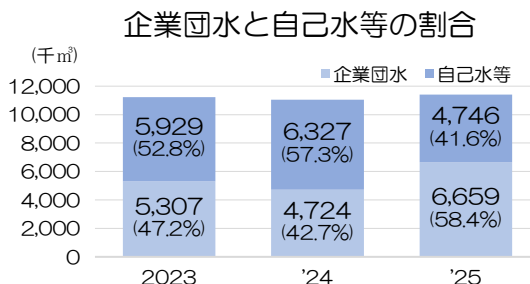
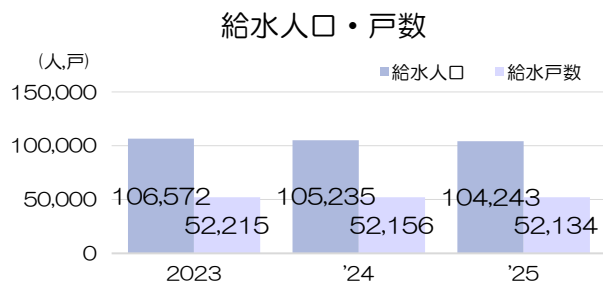
その他の取組

- 重要施設配水管路の更新・耐震化を実施しています。
- 東部配水池に送水ポンプ施設を整備し、彼方配水池との相互連絡が可能となりました。

■ 富田林水道事業

富田林水道事業は、2025年4月1日に統合し、事業を開始しました。そのため、各グラフ等の前年度以前の値は富田林市水道事業の値となっています。

給水人口や給水量の推移



2025年度末の給水人口は104,243人で、前年度と比べて992人(0.9%)減少しています。

また、給水戸数は52,134戸で22戸(0.0%)減少しています。

給水量は11,404千㎡で、前年度と比べて354千㎡(3.2%)増加しています。

財政収支

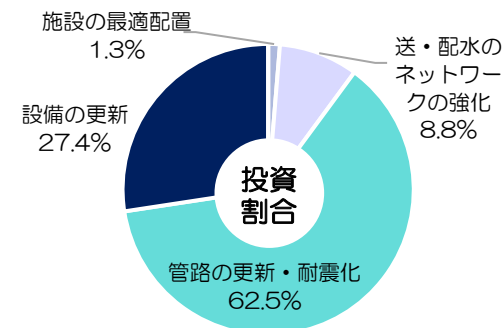
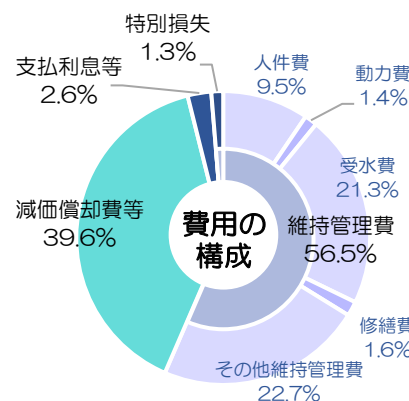
(単位：百万円、税抜)

収益的収支	2024決算(a)	'25決算(b)	差引(b)-(a)
収 益	2,435	2,324	△ 110
給水収益	1,705	1,654	△ 50
長期前受金戻入	419	383	△ 36
その他収入	190	256	66
特別利益	121	30	△ 90
費 用	2,312	2,256	△ 56
維持管理費	1,194	1,275	81
減価償却費等	967	892	△ 74
支払利息	50	59	9
特別損失	101	30	△ 71
単年度損益	123	68	△ 54

(単位：百万円、税込)

資本的収支	2024決算(a)	'25決算(b)	差引(b)-(a)
収 入	626	531	△ 96
企業債	500	347	△ 153
国庫補助金等	—	33	33
その他収入	126	150	24
支 出	1,264	1,159	△ 105
建設改良費	1,108	1,002	△ 107
企業債償還金	156	158	2
その他支出	0	0	0
収支の差額	△ 638	△ 629	9

* 収支の差額については、積立金等で補てん



※ 投資割合は建設改良費の内訳のことです。

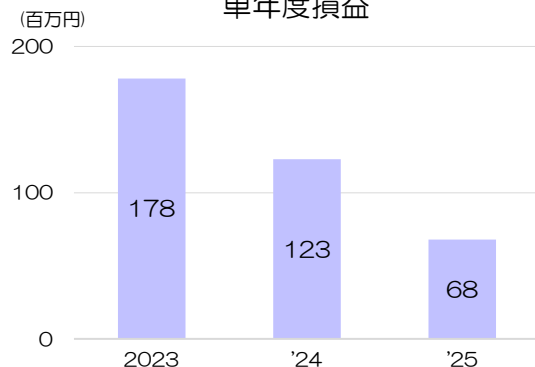


収益は、長期前受金戻入や特別利益の減少などにより、前年度と比べると110百万円減少しました(水道料金(基本料金)の減免により給水収益が減少していますが、富田林市からの負担金収入で補てんされており、収益総額への影響はありません。)。費用は、自己水源である滝畑ダムの湧水に伴い企業団からの受水に振り替えたことによる受水費の増加などで、維持管理費は増加しましたが、減価償却費等や特別損失が減少したことにより、前年度と比べると56百万円減少しました。

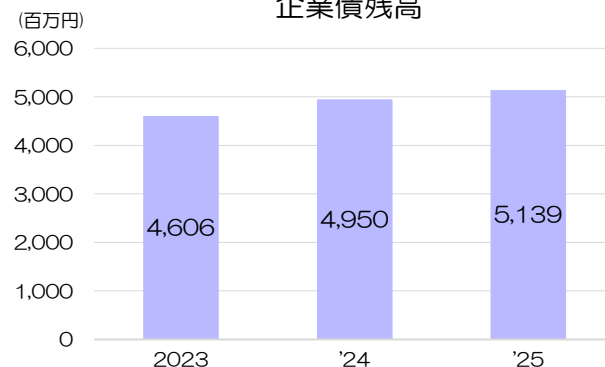
これらの結果、単年度利益は前年度に比べ54百万円減少し、68百万円となりました。

財政収支の推移

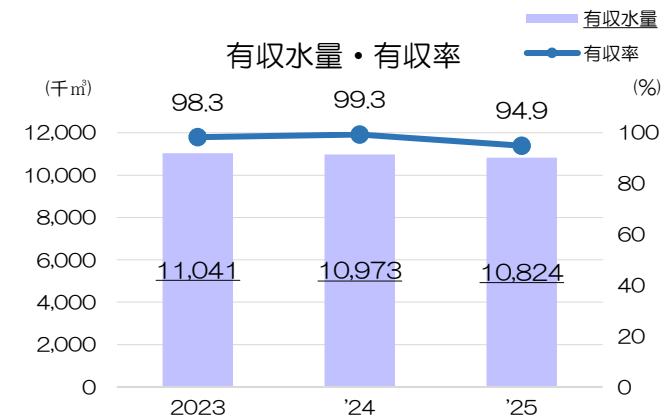
単年度損益



企業債残高



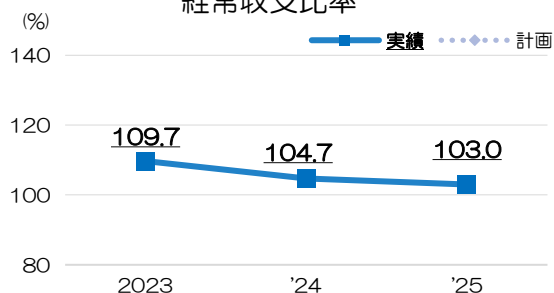
有収水量・有収率



主な経営指標の状況

○：計画を達成 △：計画を概ね達成(計画値との乖離が5%未満) ×：計画を未達成

経常収支比率



達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	-	-	-	-	-

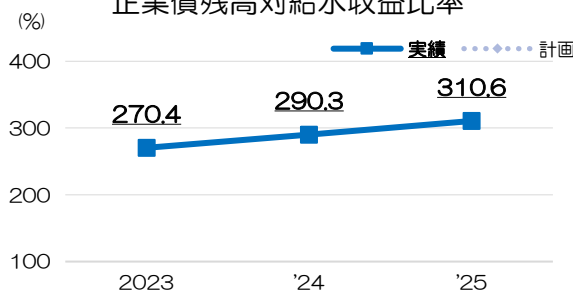
〈算出式〉 経常収益／経常費用×100

〔給水収益や繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表し、100%以上となっていることが必要です。〕

前年度と比べ、維持管理費が増加したことから、1.7ポイント減少しています。

【参考:2024年度類似団体平均値108.5%】

企業債残高対給水収益比率



達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	-	-	-	-	-

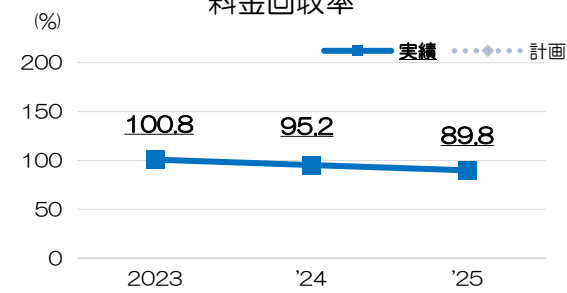
〈算出式〉 企業債現在高合計／給水収益×100

〔給水収益に対する企業債の割合であり、企業債残高の規模を表します。明確な数値基準はなく、経年比較や類似団体比較等により適正な数値となっているかをみる指標です。〕

前年度と比べ、企業債残高が増加したことから、20.3ポイント増加しています。

【参考:2024年度類似団体平均値222.5%】

料金回収率



達成状況	2021	'22	'23	'24	'25
	-	-	-	-	-

〈算出式〉 供給単価／給水原価×100

(供給単価＝給水収益／有収水量)

〔給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表します。〕

前年度と比べ、減免により給水収益が減少したことから、5.4ポイント減少しています。

【参考:2024年度類似団体平均値100.3%】

※ 富田林水道事業については、2025年4月に統合したため、経営戦略において計画値を設定していないことから、2023年度から2025年度までの3か年の実績の推移のみお示ししています。